

5. 学校施設

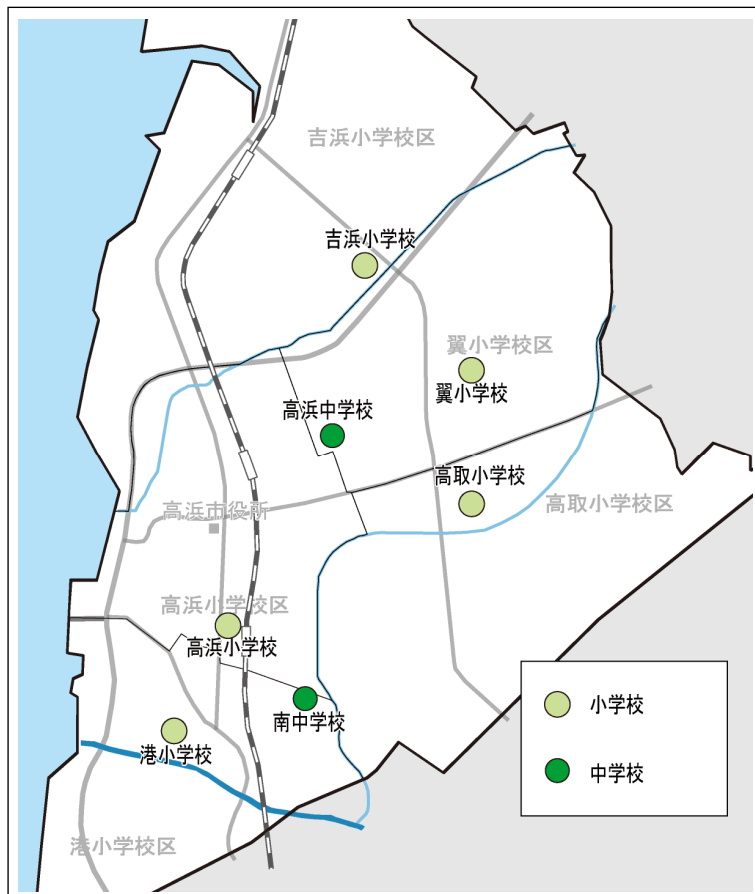
(1) 施設概要

① 施設一覧

本市には、小学校5校、中学校2校、計7校、5万2,812㎡の学校施設の建物があります。校舎等と屋内運動場（体育館、武道館）を併せた延床面積をみると、小学校の最小値は4,898㎡の港小で、最大値は9,729㎡の翼小です。中学校は高浜中の方が1万320㎡と大きく、南中は小学校と比較しても平均的な規模となっています。学級数（特別支援学級を含む）は、小学校は最も多い吉浜小学校が23学級、最も少ない港小学校が14学級です。高浜中が25学級、南中が17学級となっています。児童生徒数（平成22年5月1日現在）は、計4,464人のうち小学校3,041人、中学校は1,423人です。

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積(㎡)			建築年度		児童生徒数		学級数(学級)		
			校舎等	屋内 運動場		校舎等	体育館	通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別 支援	
小学校	1 高浜小学校	青木町六丁目1番地15	24,919	7,841	6,011	1,830	昭和34	昭和45	646	7	18	1
	2 吉浜小学校	屋敷町五丁目8番地1	20,641	6,390	5,257	1,133	昭和44	平成7	747	7	21	2
	3 高取小学校	本郷町六丁目6番地1	18,286	6,061	5,289	772	昭和40	昭和47	592	5	18	2
	4 港小学校	碧海町四丁目1番地7	18,747	4,898	3,996	902	昭和50	昭和51	347	7	12	2
	5 翼小学校	神明町五丁目1番地1	21,383	9,729	8,588	1,141	平成13	平成13	676	7	18	2
小学校 計			103,976	34,919	29,141	5,778			3,008	33	87	9
中学校	1 高浜中学校	湯山町七丁目1番地1	31,484	10,320	8,095	2,225	昭和44	平成6	885	9	23	2
	2 南中学校	二池町三丁目3番地2	22,390	7,573	5,900	1,673	昭和52	昭和53	524	5	15	2
中学校 計			53,874	17,893	13,995	3,898			1,409	14	38	4
小・中学校 合計			157,850	52,812	43,136	9,676			4,417	47	125	13

図 施設配置図



② 「学校開放」及び「学校体育施設スポーツ開放事業」利用区分・利用料金

※本市では、各学校施設の体育施設およびコンピュータ教室を開放しています。

- ・体育施設…成人を含む10人以上の団体で、市内に在住、在勤または在学する者が代表者で、開放施設利用団体として教育委員会に登録された者
- ・コンピュータ教室…市内に在住、在勤または在学する者

年末年始等は下記の開放日に該当しても、利用できません。コンピュータ教室の利用料金は各校共通ですが、体育館の利用料金は各校ごとに異なります。翼小学校は特別教室の貸出しも行っていきます。

図 学校開放施設の利用区分

体育施設	開放時間	コンピュータ教室	開放時間
平日	18:00～21:00	土曜日 日曜日	13:00～16:00
土曜日、日曜日 祝日	9:00～21:00		

表 開放施設の利用料金表

	単位	高浜小学校	吉浜小学校	高取小学校	港小学校	翼小学校	高浜中学校	南中学校
体育館	1時間	2,240	2,760	950	1,250	3,400	3,240	1,760
	1㎡当たり	1.2	2.4	1.2	1.4	3.0	1.9	1.5
	開放事業 1時間	600 (半面は420)	540 (半面は370)	180	200	540 (半面は370)	640 (半面は440)	410
	1㎡当たり	0.3	0.5	0.2	0.2	0.5	0.4	0.3
屋外体育施設照明施設	1時間	—	2,100	—	—	1,400		
コンピュータ教室(1台)	1時間	100	100	100	100	100	—	—
卓球場	1時間	—	—	—	—	—	530	—
	開放事業 1時間	—	—	—	—	—	110	—
ふれあいホール	1時間	—	—	—	—	940	—	—
会議室	1時間	—	—	—	—	200	—	—
家庭科室	1時間	—	—	—	—	390	—	—
理科室(1)	1時間	—	—	—	—	370	—	—
理科室(2)	1時間	—	—	—	—	380	—	—
図工室	1時間	—	—	—	—	430	—	—
音楽室(1)	1時間	—	—	—	—	550	—	—
音楽室(2)	1時間	—	—	—	—	490	—	—

(2) 実態把握

① 児童生徒数および学級数の推移

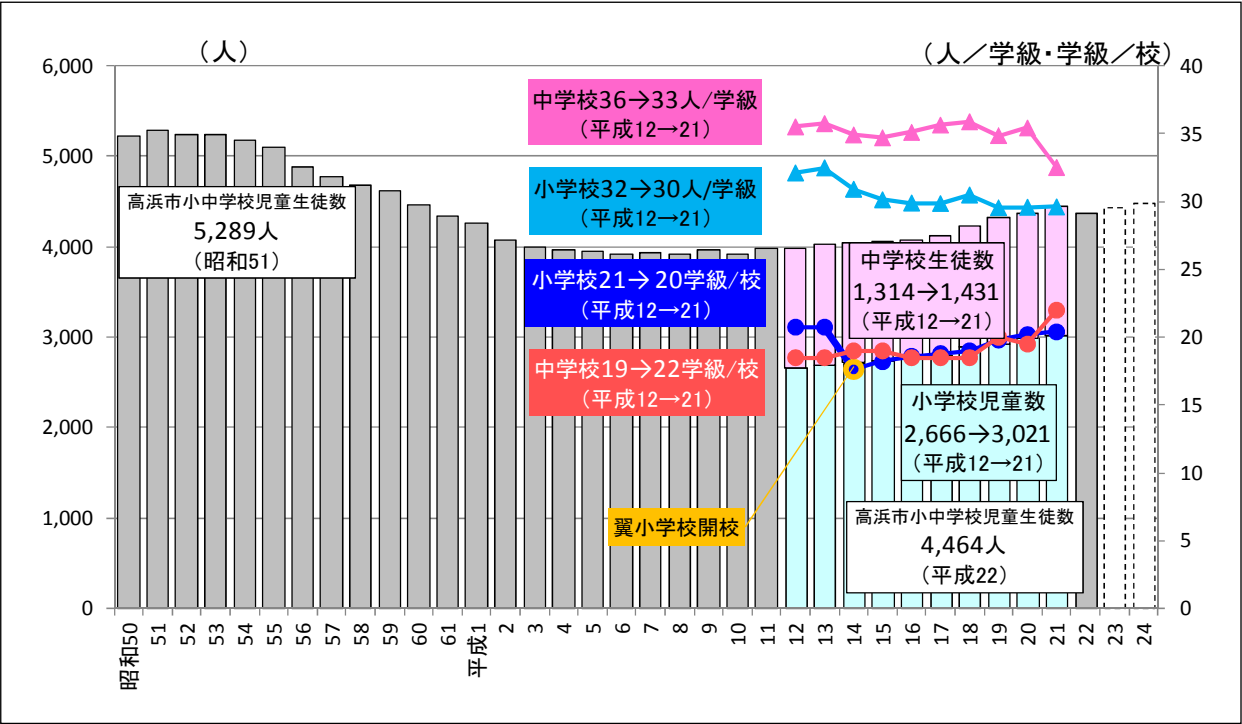
児童生徒総数は、昭和51年の5,289人をピークに減少しています。平成4年から12年までは横ばい傾向が続き、平成12年頃からは増加しています。小学校児童数は、平成12年から21年まで355人増加、中学校生徒数は同年間で117人増加しています。

1学級あたりの人数は、少人数学級を推進していることから減少しています。

1校あたりの学級数は、平成14年に翼小学校が開校したことから減少しましたが、微増傾向にあります。中学校は19学級から22学級に増加しています。

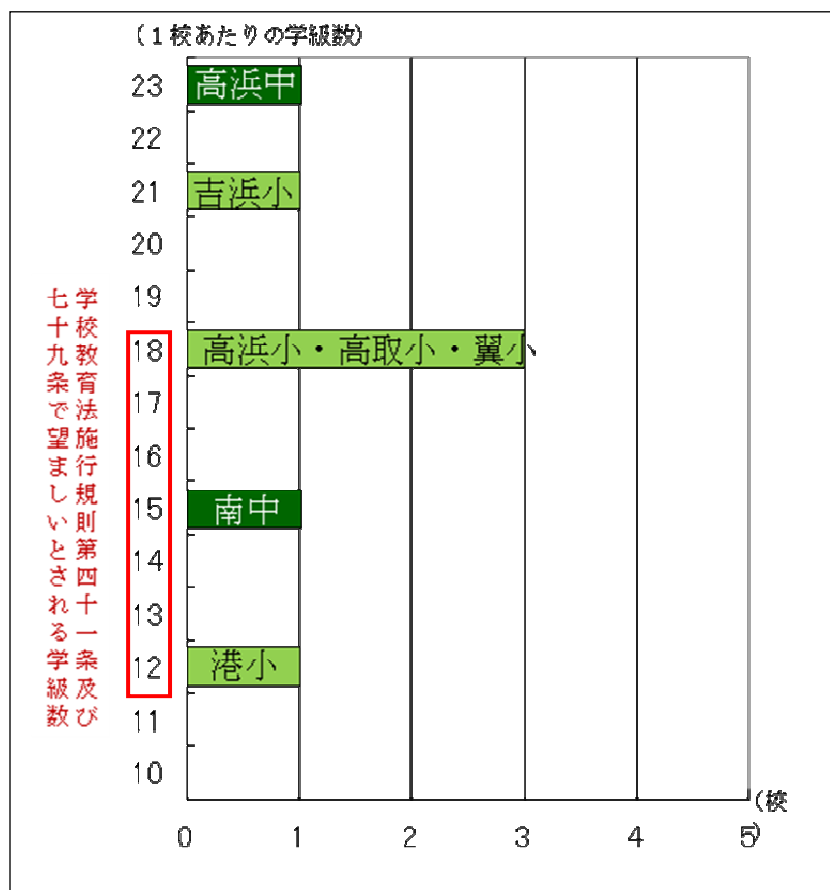
このように、児童生徒数は近年増加傾向にあり、将来予測においても微増と予測していますが、昭和51年のピーク時に比較すると80%程度となっています。しかし、国内全体が少子高齢化であり、これらを取り巻く社会環境は、経済状況や生産設備の海外移転など不確定要素が多いことから、学校施設の増床は慎重に検討しなければなりません。これから整備する施設は、児童生徒数が減少した際にも他用途に変換できる構造および設備を採用することが重要です。

図 小学校児童数と中学校生徒数推移、1校あたりの学級数・1学級当たりの児童(生徒)数



学校1校あたりの学級数の状況をみると、学校教育法施行規則第41条及び79条において望ましいとされる学級数（特別支援学級を除く）の範囲にあるのは、高浜小、高取小、翼小、港小、南中です。小規模校はありません。

図 学級数の状況



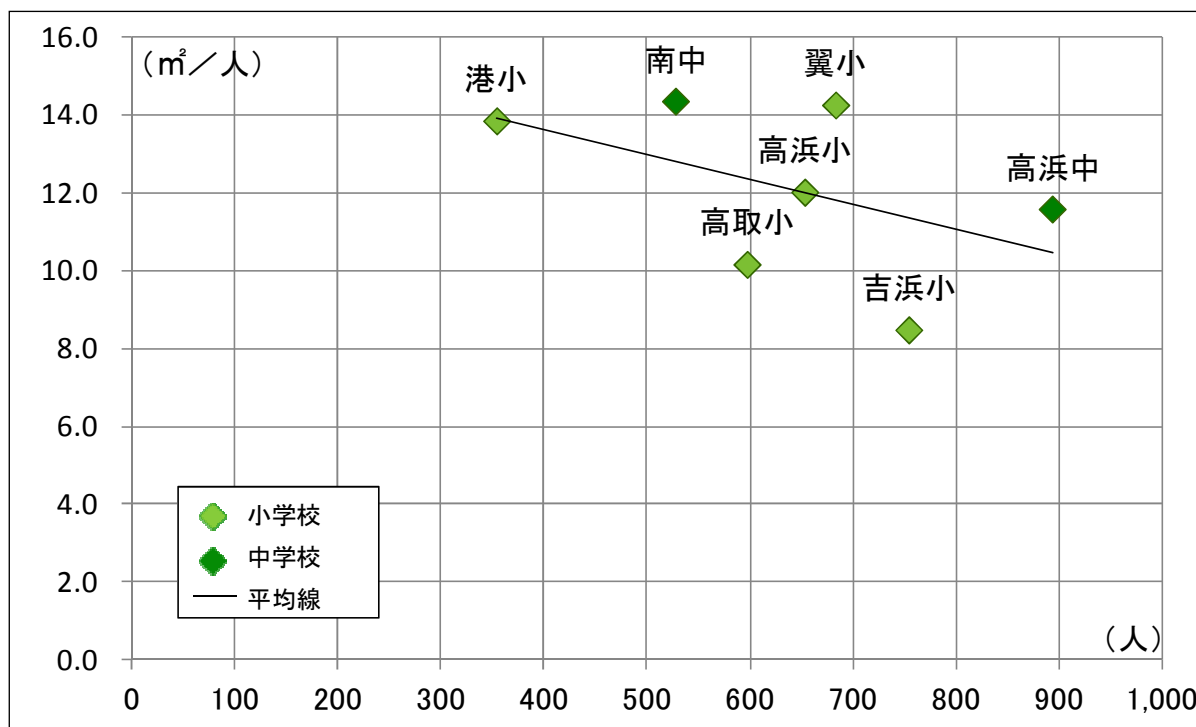
② 児童生徒一人当たりの学校施設床面積

各学校施設の延床面積を児童生徒数で除した値、すなわち児童生徒一人当たりの床面積を比較します。児童生徒一人当たりの床面積について、小学校は最大値が翼小の 14.2 m²/人、最小値は吉浜小の 8.5 m²/人で、約 1.7 倍の差があります。

中学校については、延床面積および生徒数ともに高浜中が大きくなっていますが、生徒一人当たり、もしくは一学級あたりの床面積は南中学校の方が大きくなっています。

図 児童生徒一人当たりの学校施設床面積

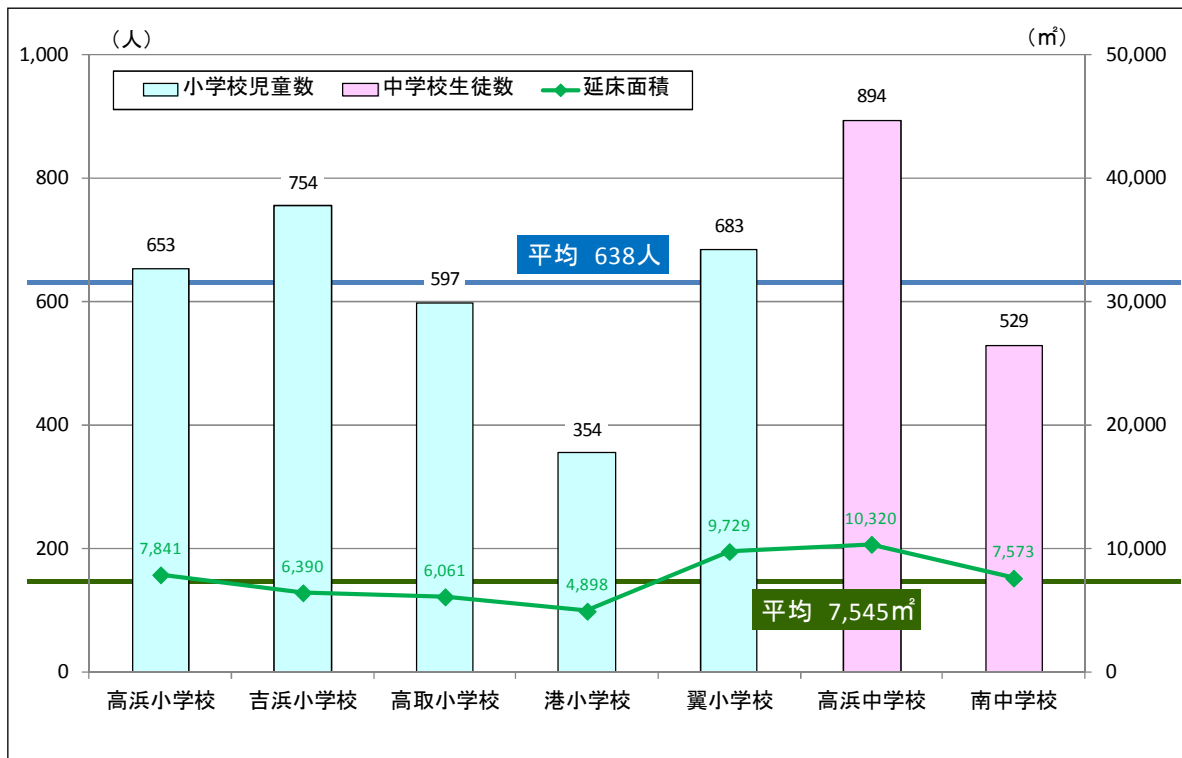
	延床面積 (m ²)	児童生徒数 (人)	児童生徒一人 当たり床面積 (m ² /人)	学級数	一学級 当たり床面積 (m ² /人)
高浜小学校	7,841	653	12.0	19	412.7
吉浜小学校	6,390	754	8.5	23	277.8
高取小学校	6,061	597	10.2	20	303.1
港小学校	4,898	354	13.8	14	349.9
翼小学校	9,729	683	14.2	20	486.5
高浜中学校	10,320	894	11.5	25	412.8
南中学校	7,573	529	14.3	17	445.5
小中学校計	52,812	4,464	11.8	138	382.7



■児童生徒数と延床面積

市内小学校の児童数は、吉浜小が最も多く754人、翼小が683人、高浜小が653人となっています。市内中学校の生徒数は、高浜中が894人と多く、市立中学に通学する生徒数の6割に当たります。市北部に立地する学校の児童生徒数が多いことが小中共通の傾向です。

図 学校別の児童生徒数と延床面積



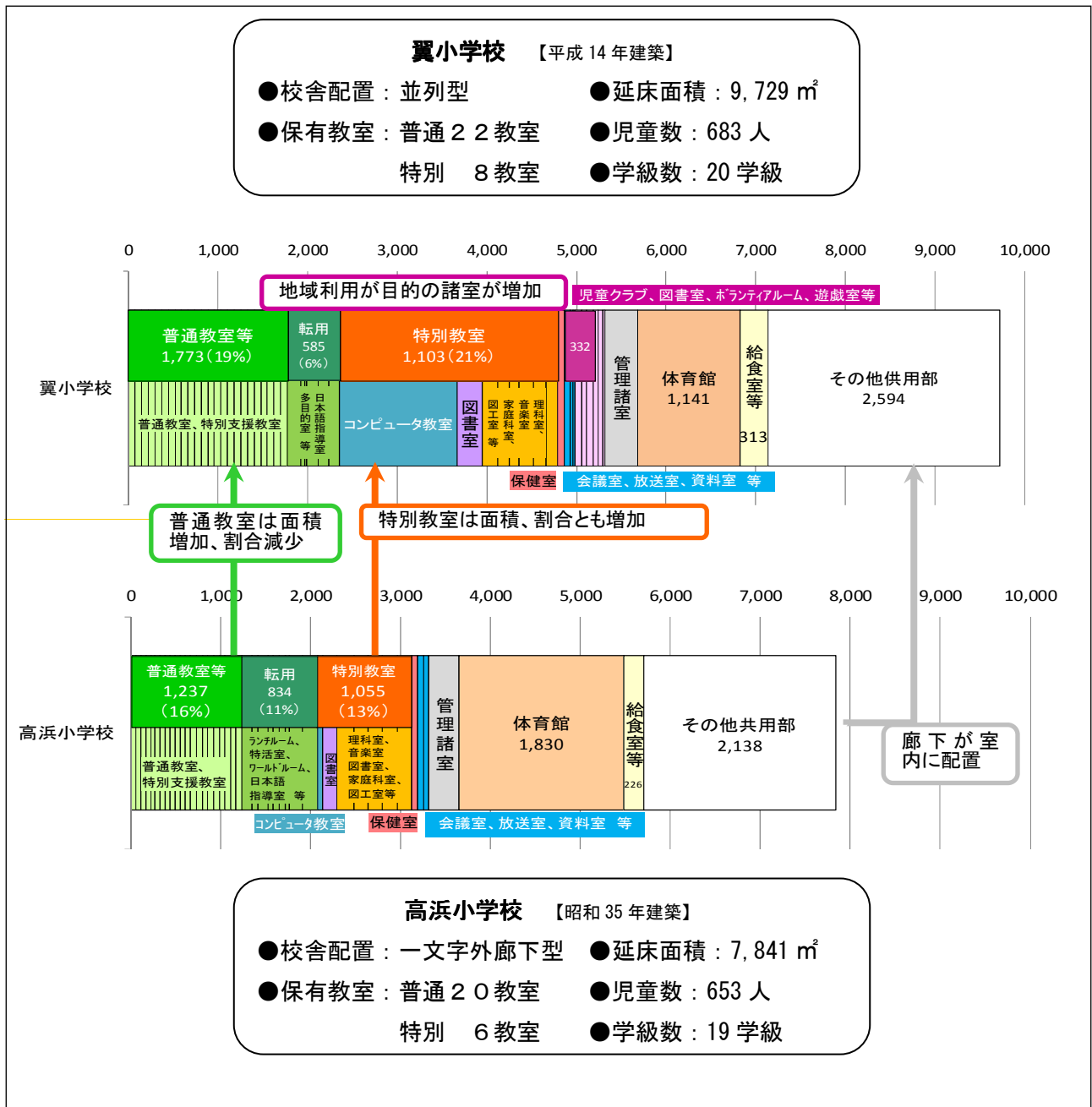
③ スペース構成

最も新しい平成 14 年建築の翼小と、最も古い昭和 35 年建築の高浜小のスペース構成を比較します。建設された年代によって、さまざまな違いを見ることができます。

教室の部屋数は、翼小が若干多くなっています。普通教室にもその他の用途にも使用できる転用教室は、高浜小が多くなっています。特別教室では、翼小のコンピュータ教室が高浜小のものに比べて広がっていることが目立ちます。

翼小学校は、地域住民の利用を念頭に設計されているため、児童クラブ室、集会室・ボランティアルーム、創作活動室等、子育てあるいは集会機能を保有しています。これらは、特別教室等として普通教室等とは動線が分かれるように配置されています。その他、体育館は校舎と同棟に整備されています。高浜小学校は、一部の教室棟において外廊下となっています。

図 スペース構成

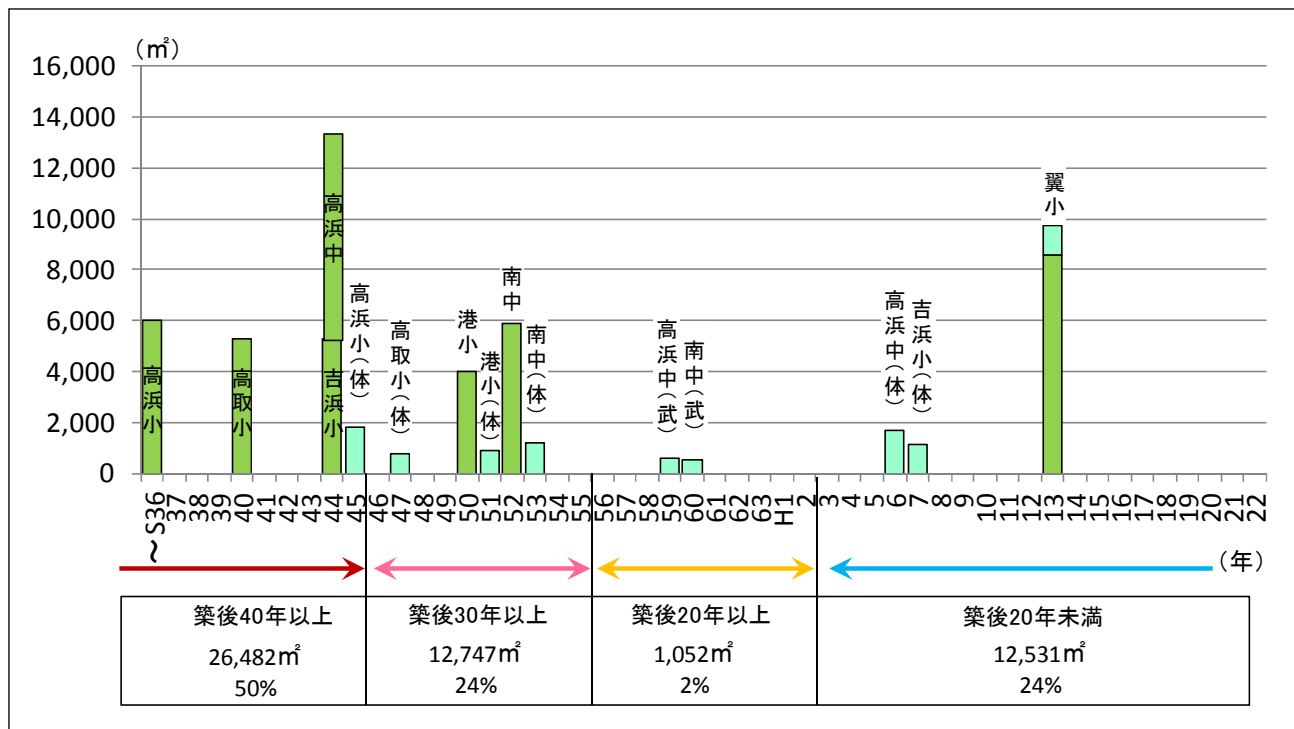


④ 建物状況

■ 築年別整備状況

学校施設の74%が築30年以上となっており、老朽化に対する対策が急務となっています。しかしながら、やみくもに施設更新を行うのではなく、保有量やその他用途との複合化の検討が必要です。

図 築年別整備状況



■ 耐震化状況

昭和57年以降は新耐震基準

	耐震診断	耐震補強工事	判断基準
高浜小学校	実施済み	実施済み	
吉浜小学校	実施済み	実施済み	
高取小学校	実施済み	実施済み	
港小学校	実施済み	実施済み	
翼小学校	不要	不要	新耐震基準のため
高浜中学校	実施済み	実施済み	
南中学校	実施済み	実施済み	

※国土交通省では耐震改修促進法において、 I_s 値 0.6 以上 についての安全性とは「地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、または崩壊する危険性が低い」と評価されています。文部科学省では学校施設の耐震性能として、 I_s 値 0.7 以上の安全性を求められています。したがって、文部科学省における学校施設の耐震性能条件は以下のとおりとしています。

- ・ I_s 値 < 0.3 : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- ・ $0.3 \leq I_s$ 値 < 0.7 : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- ・ I_s 値 ≥ 0.7 : 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

⑤ コスト状況

平成 22 年度決算の教育費は約 12.2 億円（一般会計歳出の約 9.3%）です。社会教育費と、学校にかかる経費（小学校費および中学校費）が 31%（3.8 億円）を占めています。

平成 22 年度の施設関連経費は、1 億 262 万円となっており、光熱水費が 49%（4,987 万円）を最も大きな割合を占めています。なお、建物管理委託費は、消防設備保守点検、自家用電気工作物管理、浄化槽清掃管理、警備委託、窓ガラス清掃等です。学校施設の維持管理に要する経費は、浄化槽法定検査、室内空気検査、飲料水検査等となっています。

図 教育費

